

ふるさと

第 21 号



梅一輪一輪ほどの暖かさ

目次

- H. 29 第 4 回麻生ふるさと交流会 …… (1)
講演要旨：幸せな人生最終章を
送るために…… (6)
講演要旨：暴走老人『木曾路・越前・
飛騨』を走るバイク”たび” …… (11)
ふるさと最近の出来事・西宮市 …… (16)
同窓会後の楽しみ・京都 …… (17)
「ふるさと」総目次・表紙写真 …… (18)

発行：2018年2月10日（第21号）
発行：麻生ふるさと交流会事務局
担当：平塚 征英、横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

表紙写真：辻村 一男 さん
タイトル：梅一輪一輪ほどの暖かさ
撮影月日：2017. 1. 3
撮影場所：神代植物園にて
記 事：早春に聞かれる言葉です。
松尾芭蕉の弟子、服部嵐雪の
詠んだ俳句です。

「麻生ふるさと交流会」ホームページ
<http://web-asao.jp/hp2/asao-furusato/>

平成29年度・第4回麻生ふるさと交流会

場 所:麻生市民交流館 やまゆり

日 時:平成29年12月9日(土)

13時30分～16時50分

参加人数 30名、懇親会参加 21名

第1部 麻生ふるさと交流会 (13:30～15:30) 司会:辻村さん

● 開会の辞…松本会長

私は80歳になりまして、人生の最終章、介護のお世話にならざるを得ないので、しっかりと勉強したいと思います。



司会:辻村さん



参加者の皆さん



松本会長挨拶

I. 近藤紀子さん:講演① 《幸せな人生の最終章を送るために》

…講演要旨はp6を参照。

- ◇ プロフィールを自己紹介、名古屋の出身で重度障害者の介護、僻地での保健婦を希望していました。
- ◇ 在宅で重い障害の方の介護がしたい、在宅を楽しんで生活したい方の支援
- ◇ 配布資料の説明《川崎市地域包括支援センターとは？ こんにちは介護除です柿生アルナ園地域包括支援センターだより》
- ◇ 介護保険制度は利用しないほうが幸せ
- ◇ 住み慣れた地域で家族とともに過ごせるのが一番の幸せ
- ◇ 子供さんの赴任地でのお話
- ◇ スペインと日本の薬事医療の違い
- ◇ 96才で看取った義母の介護のこと
- ◇ 介護保険の利用例、認知症の場合の使用例、徘徊の場合
- ◇ 認知症は何による原因か？専門的に調べることで原因が判明し回復する場合もある。
- ◇ 成年後見人制度の説明
- ◇ 人生の最終章に当たり、不必要な治療は受けない、自分でどのような医療を受けたいかを主治医に相談し書類で残しておくことが望ましい。



【辻村さんからの質疑応答】

Q:「死はいつ来るのか？」と医者に聞いたら「本人に任せます」との答。

A:そばにいない人は本人の意思を無視して決定を下す傾向にある。

管をいっぱい付けて本人は楽しいのか、天井だけを見つめ死を待つ、このような事でよいのでしょうか？

II. 我妻昌幸さん:講演② 《暴走老人 木曾路・越前・飛騨を走るバイクの旅》

…講演要旨はp11参照。

- ◇ “たび”とは？…日常から非日常へ、
又は、生きるから良く生きるへ
(出会い、冒険、若々しさ、快樂、自分
を見つめる)
- ◇ 50cc バイクの“たび”
 - ・五感で“たび”を味わう、ゆっくり楽しむ。
 - ・コスパは最高！
⇒リッター 40 キロ走れる。
- ◇ 行った所…木曾路・下呂温泉・郡上八幡・永平寺・越前岬・金沢・飛騨古川・飛騨高山



我妻さん



このバイクで走った！



木曾路・妻籠宿



郡上踊り



越前海岸

- ◇ おいしかった食べ物…駒ヶ根のソースカツどん・伊那谷のオタグリ・高山ラーメン・飛騨牛の牛丼・野営で作った自炊料理。



ソースカツどん



飛騨牛の牛丼



野営料理

- ◇ 色々な出会い
 - ・標高 1500mの頂上の無料キャンプ場
 - ・金沢バックパッカーズ・ホステルでオランダの恋人同士と
 - ・永平寺山門
 - ・越前海岸でナンパ！



金沢バックパッカーズ・ホステル



永平寺山門



越前海岸にて

III. 今後の予定: 宮本さんより

- ◇ 2月10日、4月28日、7月29日の会場は確保した。
- ◇ 2月10日は、かじのや納豆の梶俊夫さんの講演を予定。
- ◇ 4月28日の総会後の講演は、大平悦子さんの「遠野の語り」を予定。

第2部 懇親会(15:40~16:50) 司会: 宮本さん

- ◇ 乾杯の音頭は平塚さんをお願いしました。
- ◇ 辻村さんより、先日運転免許書換えの講習会に出席し、認知症のテストがあった。テスト合格の秘訣は以下の通りです。
 - ・当日の日付は頭の中に入れておく。
 - ・絵、イラストの暗記の問題では、声を出して復唱する。
 - ・時計を思い出し、現在の時間をアナログ時計で時、分を自分で書く。
- ◇ 田中(幹)さんより、川崎フロンターレ優勝のエピソードを、面白く報告して頂きました。
- ◇ 今回の締め音頭も田中さんが中心になり一本締めで締めました。

今回も有難い差し入れを頂きました。有難うございました。

日本酒(長野の真澄、茨城の一人娘)…宮本・平塚さん



乾杯音頭: 平塚さん



乾 杯



おでんもありますよ!



差し入れ! 有難う御座いました。



講演ご苦労様。我妻さん



何という銘柄？



川崎フロンターレ優勝のエピソード：田中(幹)さん



認知症テスト合格の秘訣！辻村さん



最後のヤキソバ

もう料理は残っていません



田中(幹)さんの中締め

恒例の後片付け

ご苦労様でした！

「幸せな人生最終章を送るために」(講演要旨)

～介護保険制度、医療保険制度の上手な使い方～

近藤 紀子

私は名古屋の出身で、高校卒業後は京都の看護短大に進学しました。引き続き仙台の保健師専門学校にすすみ、保健師となりました。宮城県の僻地とされていた南蔵王山のふもとの医師のいない町へ保健師として赴任。3年間の得難い経験をした後、名古屋市での保健師を経て、東京都の保健師として定年まで勤めました。

保健所の保健師、都庁での重症心身障害児訪問看護事業、都立病院での難病在宅訪問に従事し、在宅療養支援の実際を経験してきました。定年後は保健師養成の短期大学の教員もいたしました。

保健師として、赤ちゃんからお年寄りまで、お元気な方には保健予防活動をすすめ、病気療養をしておられる方々のお宅を訪問していました。そのなかには、難病中の難病と言われている筋委縮性側索硬化症(ALS)のために、食べること、移動をすること、排せつや入浴など、日常生活全般に介助を必要とする方がおられました。呼吸も器械に頼らなければ自力では困難な状況で、一日中、常に痰を吸引するという医療的なケアが必要でした。

しかし、そのような方でもパソコンを駆使して仕事をし、お子さんを大学まで行かせている方がおられました。そのような方々の療養生活に必要な助言や、一人一人の方に合わせた療養環境の整備のためのお手伝いをしてまいりました。

それは保健師だけでは担いきれません。保健師は、医師や訪問看護師、ヘルパー、リハビリを担う理学療法士など、多くの職種の方とともに支援のチームを作ることも大きな役割でした。

一方、今までなら病院の中でしか療養できなかった方々も、本人、家族が望めば、自宅で医療や介護を受けながら療養が出来るようにさまざまな制度が整ってきております。その一つに介護保険制度があります。

このような難病の方たちであっても、医者や往診があり、必要なときは入院することができ、家族を支える看護師や地域の支えが整えば、住み慣れた家で暮らせるという例をいくつも体験することができました。

フルタイムで仕事をし、三人の子育てをしながら、夫の母親を自宅で最期まで看取った私の経験をご紹介します。

私は母が72歳の時、第一子出産を機に、それまで名古屋で暮らしていた母と一緒に住み始めました。このおばあちゃんが寝たきりになったら仕事をやめようと思っておりましたが、実際は仕事から手が離せませんでした。

母が86歳の時、玄関ドアを開けようとして転倒。大腿骨骨頭を骨折しました。若いころから食事に偏りがあり、骨がもろくなっていたのです。入院中にちょうど家の改築中だったので、バリアフリーにし、理学療法士さんのアドバイスを受け、廊下やトイレ、お風呂場に手すりをつけ(*)湯船の高さを介助しやすい高さにすることができました。

退院後は週3回デイサービス(*)に行き、私は朝早く自宅を出るため、デイサービスの日にはヘルパーさんの訪問(*)を頼んで、寝間着から外出着への着替え、デイサービスのお迎え車に乗せるまでと、帰宅時ベッドに横たえるまでを助けていただきました。そのほかの日にはヘルパーさんに昼食の世話をお願いしました。

90歳になった夏、暑い日が続いていた日のことです。いつもどおりデイサービスに出かけるつもりでしたが「そういえば昨日の夕食からあんまり食べてないし、今朝も何にも食べてないわね」と声をかけると「おなかすかない」。お水も飲んでないので、脱水が気になり、点滴の一本でも打ってもらえば脱水を防げるくらいのつもりで、仕事を休んで病院に連れて行きました。検査の結果は「心筋梗塞です。この3日が勝負ですよ」と、びっくりするものでした。そのままICUに入り、どうやら山は乗り越えて三カ月経つ頃には、もう心配ありませんといわれるまでに回復しました。

足はすっかり萎えて立つこともできません。意識ははっきりとしていてお話もできましたが、寝たきり状態となりました。施設入所をすすめられましたが、すぐに入れるところもあるはずがなく、そのまま退院することとなりました。当初は病院からの往診と訪問看護(◎)を受けましたが、その後、ながらく通院していた医院の先生に往診(◎)をお願いし、車椅子(*)、介護用の特殊寝台(*)を入れ、ヘルパーさんの訪問を受けました。入浴サービスを受けるためには家族が家にいる必要があため、それに代えてヘルパーさんに毎日ベッドの上で体を拭いてもらいました。

最後の二カ月は主人と二人で三時間おきに交代して、体の向きを変えるためにベッドの脇で休みました。ヘルパーさんには、きまりとして本人に必要なことだけしかしてもらえませんかから、私たちの居住空間の掃除、夕飯の準備などは家政婦さんを頼みました。

邦楽の好きなおばあちゃんなので、お三味線の音楽を聞かせたりすると喜んで、おしゃべりもしてくれていました。

最期の時を迎えた時は主人が付き添っていた夜でした。すぐお医者さんに来てもらわなくてはと焦っておりましたが、おばあちゃんは苦しんでないから大丈夫だからと言って、朝まで静かに見守ることにして、朝一番に電話で状況を報告したら、先生はポータブルの心電計を抱えて急いで来てくださいました。先生が到着される少し前に呼吸が止まったと気が付きましたが、黙って見守りました。先生は聴診器をあてられたあと心電図もとって下さり、心電図を示されて「ご臨終です」とおっしゃり、夫も子供たちも死を受け入れました。

川崎市では「高齢福祉のしおり」を発行しており、介護保険について、あるいは認知症、高齢者等の支援対策が示されています。区役所の窓口においてあり希望すれば誰でもいただくことが出来ます。

お手元にお配りした「こんにちは介護保険です」の冊子は、区役所の高齢福祉課でいただいたものです。皆さんは毎月介護保険料を支払っていらっしゃいますね。市民税の課税状況により保険料が決められています。40歳以上の全員が負担している介護保険料と公費(国、県、市の税金)で介護保険の給付費が賅われています。

介護保険サービスは65歳以上で、寝たきりや認知症、骨折等で一時的に介護が必要になった場合に受けられます。その他40歳～65歳未満の場合でも、脳血管障害など特定の病気の方も対象になります。

利用するには区役所の介護保険担当窓口申請し、要介護・要支援の認定(要介護1～5、要支援1～2、非該当、のいずれか)を受けます。非該当の場合でも、自立した生活ができるように介護予防・生活支援サービスが受けられる場合があります。

サービスには大きく分けて、自宅で受けるサービスと、施設に出向いて受けるサービスがあります。

文中の(*)は介護保険制度、(◎)は医療保険制度を利用しました。

私は「自宅で利用するサービス」のいくつかを利用し「訪問介護(ホームヘルプサービス)」「通所介護(デイサービス)」を利用しました。週に3回、送迎バスで近くの特別養護老人ホームにあるデイサービスセンターで、看護師さんの健康チェック、みんなでゲームや体操をしたり、お食事をいただいたりして、週1回はお風呂に入れていただきました。

そのほかに「訪問入浴介護」等があります。自宅にまで浴槽を積んだ入浴車が来て、看護師を含む3人ほどで素早く入浴させていただけます。寝たきりの方を慰めるような仕組みが工夫されており、春には菖蒲湯、冬にはゆず湯風呂といったものもありました。

さらに「短期入所生活介護(ショートステイ)」も利用しました。冠婚葬祭で家族が留守になる時、なじみの特別養護老人ホームに3日間ほど入所させていただきました。

「福祉用具・住宅改修のサービス」では「福祉用具貸与」のうち、車いす、特殊寝台を利用しました。その他いろいろな用具の貸与が受けられます。「認知症老人徘徊感知器」「自動排せつ処理装置」「移動用リフト」など、利用すると在宅での生活がしやすくなるものがいろいろあります。

「特定福祉用具購入費の支給」サービスでは「腰掛便座(ポータブルトイレ)」の購入時に支援を受けました。

「住宅改修費の支給」では、手すりの取り付けをしていただきました。寝たきりの大きな要因に転倒による骨折があります。これらを予防するために、段差の解消など、家の中で起きやすい転倒事故を防止するための改修などがあり、介護予防として有効なサービスだと思います。

寝たきり予防のために、介護が必要になった時は地元の「地域包括支援センター」を訪ねて、ケアマネージャーさんと相談してみるのもいいでしょう。もし入院中であれば、入院先にケアマネージャーさんに来てもらって相談するとよいと思います。

国は、住み慣れた地域で最期まで住み続けられる「地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。そのために医療と介護の連携強化を促しており、例えば、ケアプランをつくるケアマネージャーが病院に出向き、連携することも期待しています。

自宅で受けるサービスのほかに「地域密着型サービス」があります。認知症の方も地域で暮らし続けられるように「認知症対応型通所介護」があります。寝たきりで目が離せない重症な方や、医療的な処置(管からの栄養補給、排せつ用の管を入れている、酸素療法をしているなど)を受けている方も自宅で暮らし続けられるようなサービスもあります。

日中・夜間を通じて、定期巡回や必要に応じて随時ホームヘルパーさんと看護師さんが連携して、入浴や排せつの介助が提供されます。そのほかに、日中に通ったり、お泊りしたりと、小規模の施設でサービスが受けられます。

自宅での生活が困難になった場合は「施設サービス」があります。よく知られているものには「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」があります。病院に入院して急性期の治療が終って病状が安定したとき、在宅にむけてリハビリに重点を置いた方が対象となります。

このように介護保険制度は、住み慣れた自宅で、できる限り自立した生活ができ、家族も疲れずに介護しつつ暮らせるための制度ですが、利用するためには自己負担が生じます。実際に利用するにあたっては、ケアマネージャーの存在が欠かせません。本人の介護の必要度と本人が希望するサービスを話し合い、どんなサービスをどのくらいの頻度で利用するかケアプランを決めていきます。サービスを受け始めても、月に1回はケアマネージャーが訪問してケアプランの見直しをします。

次に、認知症のお話です。

名古屋で一人住まいの弟のお義母さんに、元気伺いの電話をしたところ、なにか話がかみ合わないで、脳梗塞でも起こしているのかと心配になり、近くの知人に急いで様子を見に行ってもらいました。実は2日前に仕事先で気分が悪くなり、一人でタクシーで家まで帰ってそのまま倒れ込み、私の電話で初めて気が付いたそうです。急いで病院に連れて行ったところ、脳内出血していてそのまま入院したと報告されました。幸い後遺症は残らず、病状が落ち着いてきたころ、我が家で一緒に暮すことにしました。

10年以上経ったころ、少しずつ認知症状がみられるようになり、お刺身にソースをかけたり、私が仕事にいくのでご飯を作っておくのですが、電子レンジで温めるようにといったのにお皿ごとガスにかけたりしました。やがて外出先で家に帰れなくなり、本人のカバンの中にあった手帳で住所がわかり、パトカーで送られてきたこともありました。

デイサービス(*)を週3回とヘルパーさんの訪問(*)をお願いしました。ヘルパーさんはゆっくり時間をかけて話し相手になってくださり、自分一人で抱え込んでいたら本人にとっても家族にとっても、良いことはないなとつくづく思い知らされました。

そのうち歩くのも大変になり、排尿も失敗するようになって、おむつが必要になってきました。寝たきりになるのも近いと思っていたとき、主治医から、肝機能が低下してきているので長年服薬していたお薬を飲むのは中止しましょうと言われました。半信半疑でお薬を飲むのをやめると、日に日に意識がしっかりしてきて、ぼけ症状が消え、昔のおばあちゃんに回復しました。

最近の読売新聞に、認知症治療の第一人者である長谷川和夫先生のことを紹介されていました。それまで痴呆と呼んでいたものを「認知症」と言い換えることを提案したほどの専門家ですが、ご自身が認知症であると告白された記事です。

先生は一年ほど前から「時間の見当」がつかなくなり、毎日、奥さんに今日は何日だと聞いていたそうです。やがて「場所の見当」がつかなくなり、最後に「人の見当」がつかなくなる、という病気の経過を自分もたどるのだと述べておられました。

現在では症状を遅らせる薬もありますが、まわりに認知症のことをよく理解している人の存在が大切であると述べられ、適切な支えがあれば、徘徊をするとか、便をこねて壁に塗ったりとか、変なものを食べたりというような、周りの人が驚き対応に困るような事態は避けられる、とも言っておられました。そして「僕は認知症として、ありのままに生きていきたい」と長谷川先生はおっしゃるのです。

60代、70代、80代と、認知症になる確率は高齢になるほど高くなりますが、それは脳の神経細胞は加齢で自然経過として壊れて行くわけだから、加齢とともに誰にでも起こりうることなのです。今でも年間多くの方が認知症のため行方不明になり、その挙句に家の近くで亡くなって発見されることといったことが報告されています。なんとか地域で支えられるような体制が作れないものかと思えます。

最後にがんについてふれたいと思います。

私の3つ年上の姉は、病気がしい病気をしたことがない人でした。78歳のとき、余命六カ月のすい臓がんを告知されました。身近に癌にかかった例がなく、私は大急ぎで図書館の癌に関する本を読み漁りました。家族もそれぞれインターネットや本で調べました。その結果、セカンドオピニオンの意見も聞いてみたい、免疫療法を試みたい、抗がん剤治療は副作用との兼ね合いで最小限にして、残された余命を充実して生きることがベストではないかと考えるに至りました。本人が希望する療養をそのつど話し合っ決めて行こうと話し合いました。

その上で主治医と話し合う時間を予約して、本人と家族(夫に先立たれ、子供3人)一緒に医師から説明を受けました。手術不適合で抗がん剤治療を勧められ、本人は「できるだけ自宅で今の生活をしたい。入院は最小限で、痛みが出てきた場合は取り除いてほしい」という希望を述べました。

主治医にセカンドオピニオンあての紹介状を書いていただき、すぐに受診しましたが、診断はまったく同じでした。免疫療法は勧められないが、本人と家族が受けたいのであればどうぞと言われ、結局最初の病院で治療を受けることを選びました。

それからは、元気な姉はさっそく旅行計画を立て、私たちや友達、家族と一緒に時間の許す限り温泉旅行をしたり、美味しいものの食べ歩きをしました。それは亡くなる直前まで続けました。

私は出来る限り姉との時間を過ごしたいと思い、1週間2週間と名古屋の姉宅に滞在し、ある時は受診に同行して医師の説明と一緒に聞きました。抗がん剤治療が1クール終わったとき、次の抗がん剤はかなり副作用も強く、治療効果もはっきりしていないと説明され、服薬を中止することにしました。

痛み止めの処方を受け、緩和ケアを選択したからいつまでも大学病院への通院ではなく、在宅治療(◎)に切り替えることにしました。急変時は再入院を受け入れると約束していただき、緊急時は夜間でも対応していただける往診専門の看護師、理学療法士(◎)の訪問を受けられるようにしました。

退院したその日に往診してくださり、看護師は在宅療養に必要なベッド(本人の立ち上がり楽にできる高さに電動調整できるもの)などすぐ手配していただきました。多い時は一日に3回も訪問してくださったりしました。

亡くなる前日まで元気でしたが、急変した時、すぐに医師や看護師が飛んできてくださり、自宅のベッドの脇で見守っていただく中、旅立ちました。薬をやめてからは黒々とした髪が生え揃い、今までよりも若く見えるくらいで迎えた最期でした。

私たちは年を重ね、いつ病に侵されて介護が必要になるかわかりません。そんな時に備えて、納得のゆく医療や介護を受けられるように、元気な今「自分はどんな医療を受けたいか、住まいはどこに住むのか、足腰が立たなくなると人の助けが必要になってもひとりで住みたい場合はどうするのか」など、家族で話し合っておく必要があります。

ちょっとした風邪でもなんでも、大きな病院にかかる人がいます。それはいかがなものでしょうか？ 大病院至上主義は日本の医療費を高くしている要因の一つになっています。私自身、現在いろんな薬を飲んでいますが、一年に一回か二回、専門医で検査を受け、専門医からかかりつけ医に紹介状を書いていただき、日常的にはかかりつけ医に処方もお願いしています。

薬もかかりつけの薬局を決めて、一か所からいただくようにして指導を受けています。お薬手帳は受診するときは欠かさず持ってゆきます。

自分の病気の歴史を知ってくださる先生を持つことは大事なことです。往診してくれる先生だとよりいいでしょう。国も専門医とかかりつけ医の役割分担をし、入院は必要最低にして、在宅での医療が充実して受けられる方向を目指しています。

スペインで肺炎になったことがありました。胸が痛くて、夜間でしたが息子の車で救急外来にかかりました。日本だったら入院となるころでしたが、血液中の酸素飽和度が保たれているから、自宅で様子を見て大丈夫でしょうと診断されました。

実際1週間後、スペインから紹介状、CT、レントゲンフィルムを持ち帰り、いつもの呼吸器の専門医にかかったところ、入院しなかったの？ とびっくりされました。日本なら抗生剤、ビタミン剤、胃薬などいっぱい薬が出されますが、スペインで出されたのは抗生剤一種類でした。

夜間の救急外来はいっぱいでしたが、どなたも自家用車かタクシーで来てました。日本では一

晩に何度も救急車の音を聞きますが、スペインでは一度も見かけませんでした。

人生は自己決定の連続です。どこでどんな医療・介護を受けたいのか。日ごろから考えて、まわりに宣言するなり、書いておくことが大切です。

みなさんのように地域交流の場をお持ちになって、顔見知りの友人を地域にいっぱい作っておられることは大変に素晴らしいことだと思います。住み慣れた地域で、家族と共に、親しい友人と共に、幸せな人生最終章を送っていきたいと思います。

<講師プロフィール>

東京都衛生局、東京都神経科学総合研究所、日本赤十字武蔵野短期大学(教授)、東京都医学総合研究所を歴任。第32回東京都医療功労賞を受賞。現在は高齢者在宅介護に関する講演活動を全国で展開中。世界の国々の現状についても詳しく、著書に「筋・神経系難病の在宅介護」「難病辞典」「在宅ケア」などがある。川崎市麻生区王禅寺在住。名古屋市出身。

暴走老人『木曽路・越前・飛騨を走る』バイクの“たび”：講演要旨

我妻 昌幸

この夏約1か月にわたり奥多摩からスタートし、木曽路・郡上八幡・永平寺・越前海岸・金沢をまわり飛騨古川・飛騨高山を50ccバイクで“たび”をしてきた、その報告です。

今回の特徴はテント泊が15日間と半分を占め、ユースホテル6泊、更に外国人に人気のある欧州スタイルの格安ホテル「バックパッカーズ・ホテル」に8泊と気楽な、そしてコスパの高い“たび”となりました。

0. “たび”とは？

- ・“日常”から“非日常”へ、“生きる”から“良く生きる”へ。
- ・出会い、冒険、若々しさ、快樂、自分を見つめる。

1. 50cc バイクの“たび”とは

- ・小さいが故の走りの実感、路面の小さな変化、滑らかな道路、荒れた道路、小さな穴など全ての変化を体で感じながら駆け抜けた29日間であった。
- ・トンネルに入ったとき一瞬目の前が見えなくなる。山深い古いトンネルは国道といってもトンネル内は薄暗く、小さなバイクのヘッドライトでは路面の変化が見えにくく、小さな穴などにハンドルをとられる。前方より車が来ると、ようやく自分の走る道路状況が見えるという、何とも心細い走りである。
- ・コスパは最高！…バイクはリッター40キロ走れる。

2. 主に観たところ:

- 1) 木曾路(妻籠宿 42 番、馬籠宿 43 番)には、江戸→京都の中山道(540km)69 か所宿中の 11 宿あり。
- 2) 郡上八幡城: 日本で一番美しい山城(日本 100 名城の一つ)。四層五階建ての可愛らしい天守閣と隅櫓、このお城は大阪城と同じく昭和初年に模造された。
- 3) 永平寺: 曹洞宗大本山。寛元二年(1244 年)道元禅師が開いた座禅修行の道場、大小 70 余の建物。

「禅」、亡くなったアップルの創業者スティーブ・ジョブズも傾倒していたことは有名ですが、果たして「禅」とはなにか。44~45 年前の 5 月に友達と福井から、えちぜん鉄道・バスを乗り継ぎ来たことあり。老杉に囲まれしっとりとした雰囲気禅寺という昔の記憶あり、今はその面影はあまりなく、俗化した観光地となっている。

4) 越前海岸: いろいろな出会い



郡上八幡城



永平寺



越前海岸

5) 金沢(近江市場、兼六園、ひがし茶屋街、長町武家屋敷、鈴木大拙館等)

- ① 近江町市場(おおみちょういちば): 近江商人が作った市場という、170 店舗、大阪の黒門、京都の錦市場等とともに有名。北陸新幹線の開業により観光客目当ての市場の感じで、地元市民の台所という感覚があまり感じなかった。値段が高い!
- ② 兼六園: 17 世紀の中期、加賀藩により金沢城外郭・庭園。江戸時代、池泉回遊式庭園。岡山の後楽園、水戸の偕楽園と並んで日本三名園の一つ。外国からの観光客、特に中国人の団体が多く、落ち着かない。
- ③ ひがし茶屋街: キムスコ(木虫籠)と呼ばれる美しい出格子がある古い町並み、五木寛之著「朱鷺の墓」の舞台となった。重要伝統的建造物群保存地区。
- ④ 長町武家屋敷: 加賀藩時代の上流・中流階級藩士の侍屋敷が軒を連ねている。土塀と石畳の路地が続いており、藩政時代の情緒ある雰囲気を味わうことができる。

6) 飛騨古川: 司馬遼太郎は『街道をゆく』でこう描写している。

この街について「古川の町並みは、一步入ると、息をのむ美しさである。軒先が一直線に並び、目の細かい出格子が連なる。道は石畳である。碁盤状に区切られた街並みであるから、道路は直線で直角に交わり、端正な美しさがある。」



金沢・近江町市場



飛騨古川



飛騨高山

7) 飛騨高山:天領とは、高山のまちづくり、飛騨の匠について

- ①天領について⇒木材需要…室町時代の後半、関西では 800 万本の立木必要であった。家康は日本一の流域山間部を天領として、伐採を管理し計画的に行い、江戸の供給地にした。⇒高山陣屋 飛騨・木曾・日田・吉野・徳島などを天領とした。
- ②高山のまちづくりの特徴: 武家地1に対し町人地1. 2倍。全国平均は7割:3割。商人の経済力を重視した金森長近の藩政 107 年間は京文化の影響、後は江戸文化との交流が図られ、今日の基礎がつけられた。
- ③飛騨の古代史を探る:『墮落論』で有名な作家の坂口安吾。この作家も、飛騨に大きな魅力を感じた一人である。『飛騨・高山の抹殺』や『夜長姫と耳男』という短編小説で飛騨に題材をとったものである。

昭和 26 年 7 月、高山地方を旅行した。当時、高山にはタクシーが 7 台しかなかったという。その 1 台で飛騨国分寺や大雄寺等をまわった。国分寺で拝観した薬師如来像や聖観音像、大雄寺の仁王尊像などに、彼は飛騨の文化の高さを感じた。また、〈飛騨の匠〉の心をつかみ取った。

・エッセイ「飛騨の顔」昭和 26 年 9 月から抜粋:
『大昔からヒダの大工をヒダのタクミという。大工でもあるし、仏師、仏像を造る人でもあるし、欄間などの精巧な作者でもある。(略)日本の木造文化や木造芸術の源流は彼らに発し、彼らによって完成され、それを今日に伝承しているとみられるのである。
ヒダのタクミとはヒダの大工ということで、一人の名前ではない。大昔から、大和飛鳥のミヤコや、奈良のミヤコ、京のミヤコも彼らなくては出来なかったものだ。後世に至って、左甚五郎があるが、これはヒダの甚五郎のナマリであろう。彼の制作年代が伝説的に長い時期にわたっているのを見ると、これも特定の個人の名ではなく、単にヒダのタクミという場合と同じような、バクゼンとヒダの名匠をさしているもののようなものである(略)』

・「平安京をつくる時にはヒダからとる税はヒダのタクミだけ」「毎年百人ずつタクミをヒダから(税として)徴用した。その後安吾は乗鞍山が眺望される飛騨のある地方に長者〈夜長〉を仮構し、その一人娘・夜長姫を巡ってヒダのタクミたちの無気味なドラマを展開してみせるのである。

3. “おいしかった”食べ物:

- 1) 駒ヶ根のソースカツどん:もともとは喫茶店、1 時間近く順番待ちの上入店した。

井の上にヒレカツがなんと 4 枚、サラットした揚げ具合、ソースとの相性も良く、ビッグなカツを何とか完食。大満足、今でも唾が出そう。
- 2) 伊那谷の「オタグリ」:今年の 6 月ごろ朝日新聞夕刊に掲載され、丁度たびの計画中で、予定に入れ、往復 120kmを駆け飯田市まで向かった。あいにく昼時を過ぎ店での食事はかなわず、オタグリのみ購入し、その晩、山頂で野菜炒めの中で食す。噛めば噛むほど濃厚な味がでてモツなどというには高貴な肉の味わいであった。
- 3) 高山ラーメン
- 4) 飛騨牛の牛丼: 吉野家と比較してバラ肉とステーキ肉の差ぐらいあり、なんと飛騨牛のうまかったこと!
- 5) 野営で作った料理:
- 6) 自炊料理の“あれこれ”:



ソースカツどん



飛騨牛の牛丼



野営料理

4. いろいろな出会い

1) 陣馬形山キャンプ場: 上伊那郡中川村(標高 1445m)

死ぬまでに一度は行きたい超絶景！天空のキャンプ場として口コミで広まる知る人ぞ知るキャンプ場。ベテランキャンパーでも全国で1番と評価する人も多くキャンパーあこがれのキャンプ場です。

下界に広がる雲海のすばらしさ。伊那谷の町並みがジオラマのように広がる遠近とコントラストが実に絶妙。ここにあるのは最小限の炊事場とトイレのみ。あるのは景色だけ！



2) 郡上おどり: 7/8~9/2 毎日、♪郡上八幡出て行くときには 雨も降らぬに袖絞る・・・♪

「かわさき」の一節です。春駒・・・まつさか。(重要無形文化財)

400年以上の歴史を持つといわれる郡上おどり。領民の融和を図るために、郡上各地で踊られていた盆踊りを集め推奨したとも伝えられている。曲目は全部で10曲あり、各々振付が違ふとのこと。



7/27 小雨の中、お城の下のホテルの広場に見学に行く。500

~600人くらいの人々の8~9割が踊りに加わり、観客はわずか。薄暗い明りの中でお囃子に合わせ踊っている風景は何か神秘的でもあり、女性は怪しい色気さえも感じた踊りであった。

3) 越前海岸でナンパ！: 今年の流行語大賞「インスタ映え」するかしら？

4) 金沢・高山「バックパッカーズ・ホステル」

①k's house 金沢: 今年6月にオープンしたばかりで、1泊1,900円。

商店街の中にあるオフィスをホステルに開業したばかりで、特別ディスカウント料金で2泊。キレイでゆったりとしたベッド、キッチンなど快適な設備、24時間使えるシャワー設備等、また兼六園や21世紀美術館にも近く便利であった。

・高山駅前の観光案内所では、外国人のためのホテル案内が充実しており、格安ホテルリストの中から選び、その場で電話をかけ予約してくれるという親切な対応で感激した。

②k's house 高山: JR高山駅から徒歩3分。

ここも快適なホテル、1泊2,900円とこれが相場らしい。

③J-hoppers 高山: 台風接近などもあり、ここに5泊。

少し古いが外国人が多くにぎやか。設備はほぼ同じ。



越前海岸にて



バックパッカーズ・ホステル 金沢



同左 高山(フランス人の家族と)

5) 鈴木大拙館の印象:

来館者の自由かつ自然な心で“大拙”に出会うことにより、そこから得た感動や心の変化を、自らの思索に繋げていく。
・大拙を「知る」→学習空間で大拙の心や思想を「学ぶ」→思索空間で自ら「考える」、この三つの行動がとれる施設構成となっている。

金沢の医者の子に生まれた(1870~1966)96。日本仏教、特に禅宗と浄土真宗の伝統を明瞭な言葉で語り、日本文化の中で仏教の意味を再評価した。

・著作の半分を英語で書いた。禅を対象化し「日本的靈性」の集約的な表現であることを普遍的言語で叙述した。同級に西田幾多郎(1870~1945)。

・あらゆる時代の日本人の中で知的または精神的に、世界に最も広く、深い影響を与えたのは鈴木大拙である。

・「人生は畢竟(つまるところ)、一つの未知から他の未知への旅である」

⇒旅行が容易で快適に過ぎれば、その精神的意味は失われる。(略)旅によって生ずるある孤絶感は人生の意味を反省させる。



5. 最後に

スマホ無しには“たび”が出来ない時代？(NAVI、カメラ、観光地情報、予約 等)

『旅は効率が悪ければ悪いほど 多くの出会いと発見があるものだ』

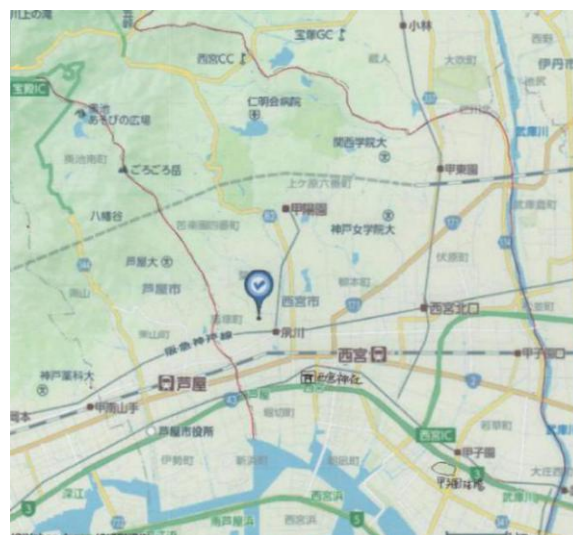
ふるさとで最近一番印象に残った出来事:西宮市

田中 元介

私のふるすとは兵庫県西宮市です。今まで住んだ所の中では麻生区在住期間が最も長いのですが、今でも1歳から中学3年生までの14年間程を過ごした西宮市の夙川(しゅくがわ)あたりをふるさとだと思っています。

このように、狭い地域の中でも違いがあるのが関西の特徴だと思います。

さほど広くない西宮市ですが、南の沿岸部と北の山間部では都市化の状況が大きく異なります。今は山間部にも道路が通り家が建っていますが、半世紀前は山林の所々に農家がある地域でした。沿岸部は昔から都市化していましたが、尼崎市寄りの東側と芦屋市寄りの西側では雰囲気異なります、北側の阪急沿線と南側の阪神沿線でも異なっていました。関西出身の人の中には関東に長く住んでいても関西弁のイントネーションで話す人がおられますが、夙川あたりの出身の人にはあまり見られないようです。



西宮市 地図

最近印象に残った出来事に、西宮市の今村市長が「殺すぞ」「このくそがき」「支局長に落とし前つけさすからな」と発言して世間を騒がせたというニュースがあります。あくまでも私の受け止め方ですが、このニュースから感じたことを述べてみたいと思います。今村市長は西宮市で生まれ、神戸大学附属小学校、甲陽学院中学校・高等学校、京都大学を卒業している、関西人の典型的エリートです。私も幼稚園卒園前、神戸大学附属小学校を受験しましたが不合格でした。神戸大学附属小学校は、阪神間では最も優秀な児童が行く小学校です。甲陽学院中学・高校も、よくできる子どもが進学する学校です。私は灘中を受験しましたが不合格でした。灘高は東大受験指向が強いのに対して、甲陽学院高校は関西に留まる指向が強い灘高と同レベルの進学校という感じです。

なぜこのようなエリートが「殺すぞ」「このくそがき」といった発言をしたのかですが、関西には不出来指向、下品指向、悪振る指向という傾向があります。不出来指向というのは、英語に不自由しない人が会話の中である英単語を話すとき、「スピなんちゃらかんちゃら」といった言い方をすることがあります。ちゃんと発言するとカッコつけやがってと思われるからちゃんと発言しないのです。下品指向というのは、女性が長い時間席を外したとき「ウンコしてたん?」と言って出迎えるといったことです。私は夙川小学校から校区が広い公立中学に進学してから、「しばきまわすぞ」といった特定の地域で使われる言葉を使うようになりました。関西には以前被差別部落問題がありましたが、自分をそういう位置に置くような言動をするのは悪振る指向だと思います。意外にも、関西人は他人からどう見られるかをとても意識しているのかもしれませんが。不出来な人、下品な人差別される地域出身の人に見られたいという関西人ならではのへそ曲がりな面と、他人からどう見られるかの過剰意識が、この非常識な発言の底辺にあるように感じました。

同窓会の後の楽しみ: 京都

新井 稔弘

H29年10月29日、京都の小学校の同窓会が大和大路五条の「はり清」で開催された。昼食会のため、へべれけに酔うわけにはいかず、ほどほどにして会話を楽しんだ。

夕食は一人で昔懐かしいハママラが、府庁前交差点にオープンしたと聞いて、18時の開店に飛び込んで、肉てん(豚の中華風天ぷら)を食して味が変わっていないことでほっとした。



ハママラの肉てん 900円

翌日は鞍馬山に一番乗りで行って参拝し、11時ごろに出町柳に戻り、目的の小さな餃子専門店(といっても他の中華料理も旨いのだが)を探しに行った。とあるエッセイ「おっちゃんのキッチン」を読み、著者が京大卒とあったため百万遍の近くとあたりを付け、ネットで調べてそれらしい店があったので、11時25分開店前に飛び込んだ(赤い暖簾が店頭に出ていれば、営業中である証とネット情報を得ていたため)。

著者の名前を出すと、「そうですか藤原先生の本を読まはったんですか、お好きな席にどうぞ。うちはおひとりさん大歓迎です」と言われ、カウンターの一番右端に座り餃子定食600円税込みを注文(餃子12個とスープとご飯)。

この店に来た理由は、藤原先生のエッセイを読んで、「京都の人情のある食べにくる客の顔の筋肉が、緩んでいるお店」と記載されていたので、下調べに来たというわけです。エッセイの通りのご夫婦で、阿吽の呼吸で料理が作られ、餃子も野菜リッチながら肉の旨味もある。見た通りの皮は焦がさずパリパリ、もちりした餃子定食でした。お水も見ていないようで見ていて、なくなりかけると黙ってさっと注いでくれる気配りのあるお店でした。

エッセイの著者の言うことが事実であることを確認して、600円を払って11時40分に退散し、5分ほど店の横でみていたら45分には満席となりました。噂にたがわぬ繁盛しているお店でした。



餃子定食 600円



阿吽の呼吸の夫婦

小説やエッセイで京都の飲み屋や食堂を検証して、なるほどと一人悦に入るといふ独り歩きが楽しいのです。

今年も同窓会の次はどこへいこうかなあ。

会報「ふるさと」の総目次・表紙写真①-⑳

平塚 征英

会報「ふるさと」は平成 25(2013)年 10 月 19 日に創刊号が発行されて以来、本号で足掛け5年となり第 21 号までが発行されました。

区切れの良い第 20 号までの総目次と表紙写真をまとめましたので、参考にして頂ければ幸いです。なお、本文は本会 HP で閲覧が可能です。が、やまゆりサーバの都合で、第3号以前の記事が閲覧不能です。全てのバックナンバーが閲覧できる方法を検討中です。

創刊号は 2013 年 7 月 14 日開催のふるさと交流会(設立総会・活動事例発表会・懇親会)の報告が主な内容でした。

設立総会では、故吉森事務局長の挨拶や写真が見られます。活動事例報告は、松本良樹会長(出雲とどじょうすくい)・橋本由紀子さん(豊田市の香嵐溪)・田中幹雄さん(福井県東尋坊・越前岬)・日下部素子さん(福岡県博多市)から発表がありました。

2013 年 12 月 15 日には、たいへん残念なことに、吉森正人事務局長が急逝されました。

第 3 号(2014.3.1)は、故吉森事務局長を悼み、松本会長・宮本事務局長と一番仲が良かった鈴木毅さんから、哀悼のお言葉が寄せられました。

2014 年 7 月 23 日に本会のホームページが一般公開となり、それまで紙印刷製本の会報が 50 名以上の会員に配布されていましたが、以後の第5号からは HP「会員のページ」に掲載され、紙印刷製本の部数が投稿者やネット不能な会員だけに減少しました。

会報の印刷は会報系の個人プリンターで、格安インクを使って行っていましたが、2016 年 10 月の第 15 号からは、多摩区役所交流センター印刷機で、市価の 1 割程度での印刷が可能となり、現在に至っております。

会報の内容は、お国自慢発表会の報告と講演要旨が主体で、この他に会員皆さまからの一般投稿や特定の方をお願いした連載などからなっております。

特に皆さまからの投稿の多寡が、会報の充実に大きく関係しております。

今回の第 21 号への投稿の募集に当たっては、「ふるさと」のトピックを、各地域グループの方に投稿して頂くために、「出身地一覧表」に、私の独断で、投稿をお願いしたい人を「朱書き」で示すなどして投稿をお願いしました。

今回は二人の方が協力して投稿して下さいましたが、1 月末には間に合わないが、次号には投稿を考えると返信を頂いた方もおります。

今後とも沢山の投稿をして頂くよう、ご協力をお願いいたします。

麻生ふるさと交流会会報「ふるさと」総目次(創刊号～第20号)

【創刊号】2013/10/19

会長挨拶(松本良樹)p1
設立総会・懇親会の報告
＜出雲・松本(良)、香嵐溪・橋本、福井・田中(幹)＞p2
運営委員からのお知らせ p9
今後の予定 p9
会則 p10

【第2号】2013/12/1

第2回麻生ふるさと交流会報告
＜瀬戸内 G・信州 G・ちばらき G＞p1
☆謎の多い出雲大社(松本良樹)p6
☆B-1グランプリ in 豊川(宮本直紀)p9

【第3号】2014/3/1

故吉森正人事務局長を偲んで(松本良樹・宮本直紀・鈴木毅)p1
第3回麻生ふるさと交流会報告(九州 G・阪神間 G)p3
☆「秦野市県人会の集い」を見学(川口陽子)p8

【第4号】2014/4/29

今年度の活動をふりかえって(辻村一男)p1
第4回麻生ふるさと交流会報告(東京 G・北陸 G)p2
☆「春の小川」の思い出(茂木弘)p8
☆「大根の首切り」知ってます？(平塚征英)p9

【第5号】2014/10/11

麻生ふるさと交流会の2年目を迎えて(松本良樹)p1
2014年度・第2回定期総会 p2
麻生区助成金事業の登録について(宮本直紀)p4
☆富士塚・アンテナショップ巡り(横田彰夫)p5
☆みちのく一人旅(新井稔弘)p8
☆私の心の風景・満濃池(横田彰夫)p10

【第6号】2015/1/17

新年を迎えて(松本良樹)p1
2014・第1回麻生ふるさと交流会
＜宮城・山形 G、新潟 G＞p2
★特集:ふるさとのお正月★
☆金沢のお正月(鈴木毅)p8
☆京の「町名づくし」(松岡暁洲)p9
☆江戸の七福神詣で(吉田謙司)p10
☆四国さぬきのお正月(松本啓)p11

☆千葉県勝浦のお正月(白石さち子)p13
☆茨城県龍ヶ崎のお正月(宮本直紀)p14
☆仙台のお正月(平塚征英)p15

【第7号】2015/3/1

2014・第2回麻生ふるさと交流会
＜秦野市山形県人会＞p1
☆秦野市県人会の集いに参加して(宮本直紀)p8
☆すみつかれ・初午の郷土料理(平塚征英)p10
☆歴史に彩られた赤間関の先帝祭(松本良樹)p12

【第8号】2015/4/29

麻生ふるさと交流会の3年目を迎えて(宮本直紀)p1
2014・第3回麻生ふるさと交流会
＜京都 G・湯たびの会＞p2
☆九十九里浜と勝浦ひな祭り旅行(宮本直紀)p10
☆旅という言葉が好きだ(植木昌昭)p12
☆渋谷・鹿児島おはら祭り(茂木弘)p14

【第9号】2015//7/11

今年度の活動計画について p1
第3回(平成27年度)定期総会 p3
☆赤坂見附界隈の思い出(大井敏夫)p6
☆北陸新幹線で加賀百万石の古都の魅力を(鈴木毅)p9
☆こんな駅名ご存知？(四国遍路)(平塚征英)p11
☆宍道湖七珍とは(松本良樹)p13

【第10号】2015/10/10

第1回お国自慢発表会＜大阪 G＞p1
・大阪ふるさと会・総論発表要旨(松岡暁洲)p7
・大阪ふるさと会・大阪言葉文化(新井稔弘)p10
・大阪ふるさと会・発表雑感(福田誠)p12
第2回お国自慢発表会
＜健康どじょうすくい踊りの会＞p15
・どじょうすくいの歴史(どじょうすく同好会)p19
【連載】隠岐流人秘帳(その1)(松本良樹)p20

【第11号】2016/1/16

第3回お国自慢発表会＜沖縄・福島＞p1
・福島県浜通り・中通り発表要旨(松岡暁洲)p4
・新相馬節 解説(松岡暁洲)p8
☆富士山麓一周バスツアー(吉田謙司)p10
【連載】隠岐流人秘帳(その2)(松本良樹)p16

【第 12 号】2016/3/13

第 4 回お国自慢発表会

＜お城の話・江戸の街形成＞p1

・わがふるさとの姫路城(飯塚洋三)p5

第 5 回お国自慢発表会＜北海道 G＞p9

・北海道道南地区の発表補足(澤田哲郎)p14

・日本民謡の粋・江差追分(松岡暁洲)p17

☆加賀百万石の古都の歴史・伝統(鈴木毅)p20

☆神奈川県秘湯・中川温泉(宮本直紀)p23

【連載】隠岐流人秘帳(その 3)(松本良樹)p24

【第 13 号】2016/4/29

第 6 回お国自慢発表会＜三重県 G＞ p1

・サミットと伊勢志摩の魅力(古市尚子*)

* 三重県営業本部担当課 p5

・旅日記・伊勢志摩オリジナルツアー(宮本直紀)p8

☆加賀百万石の伝統文化・加賀料理(鈴木毅)p10

☆第二の故郷・中国江蘇省無錫市(大井敏夫)p14

【連載】隠岐流人秘帳(その 4)(松本良樹)p17

☆フォトギャラリー(宮河悦子)p19

【第 14 号】2016/7/23

第3回(平成 28 年度)定期総会 p1

【特別寄稿】我がふるさと会津(梶俊夫*)

* (株)カジノヤ代表取締役社長 p4

☆無錫の歴史(大井敏夫)p8

☆神奈川県サバ神社(平塚征英)p12

【連載】隠岐流人秘帳(その5)(松本良樹)p15

【第 15 号】2016/10/8

第 1 回お国自慢発表会＜小発表＞ p1

・瀬戸内は野球王国(横田彰夫・松本啓)p7

・京都のお豆腐はなぜ美味しい(新井稔弘)p8

・幼い頃の思い出・戦争談義(辻村一男)p11

・新発田市はご存じ?(原信子)p12

☆無錫の歴史(3)(大井敏夫)p14

☆ふるさと麻生の世界一(田中元介)p17

☆私のふるさと磐梯町(宮河悦子)p18

☆フォトギャラリー(茂木弘・辻村一男)p21

【第 16 号】2017/2/18

第2回お国自慢発表会

＜麻生区の蝶・北海道バイクたび(1)＞p1

第3回お国自慢発表会

＜北海道バイクたび(2)・ふるさと磐梯町＞p6

・暴走老人の北海道バイクの“たび”(我妻昌幸)p9

☆江戸の文芸・歌舞伎(大井敏夫)p11

☆加賀百万石のグルメと伝統民芸(鈴木毅)p13

☆多摩区・長松寺と多行松(平塚征英)p16

【連載】隠岐流人秘帳(その6)(松本良樹)p18

【第 17 号】2017/4/15

第4回お国自慢発表会

＜麻生の小鳥たち・麻生歴史ロマン(2)・民謡タイム＞p1

第5回(平成 28 年度)定期総会資料 p6

☆九州へ鉄旅に行ってきました(森信夫)p9

☆関東36不動霊場巡り(平塚征英)p10

【連載】隠岐流人秘帳(その7)(松本良樹)p13

【第 18 号】2017/7/15

第5回(平成 28 年度)定期総会

＜定期総会、講演・登戸研究所＞p1

講演:登戸研究所は何をしたか(近藤昭二)p2

☆江戸の文芸・歌舞伎(大井敏夫)p7

☆巨大ムカゴの話(平塚征英)p10

☆ふるさと渋谷のおはら祭(茂木弘)p12

☆松姫～勁草のごとく～(宮河悦子)p13

【連載】隠岐流人秘帳(その8)(松本良樹)p17

【第 19 号】2017/10/7

2017 第2回麻生ふるさと交流会

＜音楽と人生、麻生歴史ロマン(2)＞p1

講演要旨:音楽人生とふるさと(カンデインスキー

美帆子・ヴァイオリニスト)p5

講演要旨:麻生の歴史ロマン(2)(飯塚洋三)p8

☆マンホール蓋のいろいろ(平塚征英)p11

☆江戸のファッション(大井敏夫)p13

【連載】隠岐流人秘帳(その8-2)(松本良樹)p16

☆NHK朝ドラ「ひよっこ」(宮本直紀)p22

☆ふるさと磐梯町(2)(宮河悦子)p23

【第 20 号】2017/12/9

H.29 第3回麻生ふるさと交流会

＜麻生の民話、麻生歴史ロマン(3)＞p1

講演要旨:麻生の民話(宮河悦子)p4

講演要旨:麻生歴史ロマン(3)(森信夫)p7

☆巨大ムカゴの話(その2)(平塚征英)p11

☆あさお大好き!日記(宮河悦子)p13

会報「ふるさと」表紙写真一覧 ①～⑳

(敬称略)

創刊号



吉森さん提供

第 2 号



吉森さん提供

第 3 号



日下部作品

第 4 号



思い出の「春の小川」茂木

第 5 号



岡上の営農団地：平塚

第 6 号



朝日に映える富士山：吉田

第 7 号



吾妻山公園：朝日新聞

第 8 号



耕作前のレンゲ：辻村

第 9 号



やまあじさい：平塚

第 10 号



新百合ヶ丘夕景：辻村

第 11 号



早野ドント焼：辻村

第 12 号



増福寺吊るし籠：平塚

第 13 号



まほろばの里：茂木

第 14 号



こんな谷戸が近くに：平塚

第 15 号



実りの秋：辻村

第 16 号



子供たちの笑顔：茂木

第 17 号



我が団地の窓から：平塚

第 18 号



渋谷おはら祭り：茂木

第 19 号



西方寺のヒガンバナ：平塚

第 20 号



畑の冬じたく：平塚